

プロジェクトの名称

鹿島アントラーズ FC と茨城大学教育学部によるプロスポーツを介した地域創生プロジェクトー公式マスコット（アントン）の絵描き歌制作を通してー

（自治体等側）株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー・行政連携グループマネージャー

松田 慧吾

（大学側）茨城大学教育学部・准教授

片口 直樹

連携先

株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー
（以下、鹿島アントラーズ）

プロジェクト参加者

松田 慧吾（鹿島アントラーズ、行政連携グループマネージャー、担当：事業の企画・運営）

関口 喜也（鹿島アントラーズ、行政連携グループ、担当：事業の企画・調整、成果物の公開）

荒井 基雄（鹿島アントラーズ、コンシューマーグループ、担当：事業の企画・調整、成果物の公開）

片口 直樹（茨城大学教育学部・准教授 担当：事業の企画・運営、絵描き歌の制作及びシートの製作）

秋葉 桃子（茨城大学教育学部・助教 担当：事業の企画・運営、絵描き歌の制作及びシートの製作）

青田 庄真（茨城大学教育学部・講師 担当：事業の企画、絵描き歌の助言）

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの背景及び目的

鹿島アントラーズと茨城大学は連携協定を締結しており、2025年で20年目を迎える。協定の目的である「プロスポーツを介しての地域活性化」、「地域課題解決のための共同研究確立」を軸に、これまで様々な活動が取り組まれてきた。本プロジェクトの構想に向けた前段階として、これまでになかった教育学部との連携の形を模索する中で、活動内容の検討

を重ねた結果、絵描き歌制作の企画に取り組むこととなった。

教育学部は様々な教科教育や教科内容に関する研究者を有している。それらが有機的に連携活動の参加者として加わることで、学部の特徴を生かした融合的な成果を創出することができると考える。複数の専門性による教科融合がなせる教育コンテンツの作成に取り組むことで、教師を目指す学生や附属学校園の幼児や児童・生徒に向けた浸透も期待している。まず、「えかきうた」を制作することにより、鹿島アントラーズと茨城大学の双方にどのような効果が見込まれるかを推察する。なお、「えかきうた」は作品であるという理解から、その作成を「制作」と表記し、後述する「おえかきシート」の作成については「製作」と記す。

最終的には、鹿島アントラーズは「地域に愛されるクラブづくり」、茨城大学はイバダ・ビジョン2030のAction7に掲げる「地域創生」に寄与することを目的とする。

2 具体的な活動計画及び役割

本プロジェクトでは、公式マスコットの絵描き歌を制作し、子ども向けコンテンツとして一般公開する。具体的には、本学教育学部の教員（担当教科：美術・音楽・英語）が「アントン」の絵描き歌を共同で制作する。

絵描き歌の第一弾として、日本語の歌詞で制作することとし、英語版の制作は次年度以降に挑戦することとする。今回はコンテンツとなる絵描き歌の制作（日本語版）と描画シートの製作にとどめるが、今後は成果物を素

地とし、学生や子どもが参画できる機会を設けたい。その為、継続的・発展的に連携体制を強化していくこととする。

完成した絵描き歌の映像作品は、鹿島アントラーズのホームページや試合会場であるスタジアムなどで公開し、絵描き歌を通して地域やサポーターとの交流を図る。

連携団体である鹿島アントラーズ側は、公式マスコット（アントン）のイラストデザインの提供、作詞・作曲された音楽のミキシングとレコーディングなどの調整を行い、成果物を様々な媒体で公開する。

茨城大学側は、公式マスコット（アントン）の絵描き歌に関する作詞・作曲、映像制作を行い、活動内容の公開及び描画シートの製作を行う。全体を通して適宜内容を調整し、今後の活動に向けた検討を進める。

主なスケジュールは以下の通りである。

- 8月下旬…打合せ（オンライン）
- 9月中旬…絵描き歌の全容を決定
- 10月…クラブハウスでの打合せ
- 10月中旬…作詞・作曲の完成
- 12月中旬…絵描き歌レコーディング
- 1月下旬…映像作品の完成
- 2月上旬…描画シートの完成
- 2月中旬…成果物の一般公開
- 3月…事業の総括

活動内容及び成果

1 活動実績

（1）絵描き歌制作の背景

本プロジェクトの実施にあたり、両者で打ち合わせを重ねた結果、幼児や児童を対象とする知育コンテンツの開発に取り組むこととなった。子どもたちが歌って描くことで、親子で楽しみながら学ぶことができる新たなツールとして、絵描き歌の制作を決定した。また、題材を子どもたちに親しみのある公式マスコット「アントン」とした。これらを通し、

子どもたちの表現意欲を高め、健やかな成長をサポートし、地域への愛着につながることを期待する。

本プロジェクトの進展と同時に、鹿島アントラーズでは、アントンを主役とした子ども向けYouTubeチャンネル「トコトンアントンTV」の製作の構想が立ち上がった。成果物となる絵描き歌は、その番組内で公式映像として公開するとともに、試合会場などでも楽しんでもらうこととした。

（2）絵描き歌制作の実際

鹿島アントラーズの公式マスコットとして、しかおファミリー（しかお・しかこ・アントン）がいる。当初は様々な可能性を踏まえ、全キャラクターを題材の対象としていたが、先述したYouTubeチャンネルの構想と重なり、「アントン」に絞ることとした。また、全身を描くことも想定したが、描く時間の長さや困難さを考慮し、頭部だけの絵描き歌とした。

既存のイラストデザイン及びグッズデザインの確認を踏まえ、初めに絵画表現の研究者である片口がたたき台となるイメージを作成し、描き順を踏まえた作詞を行った。幼児や児童が知っている食べ物などで造形できるように、シンプルな形と言葉に限ることとした。リズムよく口ずさみながら描けるようにするため、反復する言葉も使用した。

以上を踏まえ、音楽教育の研究者である秋

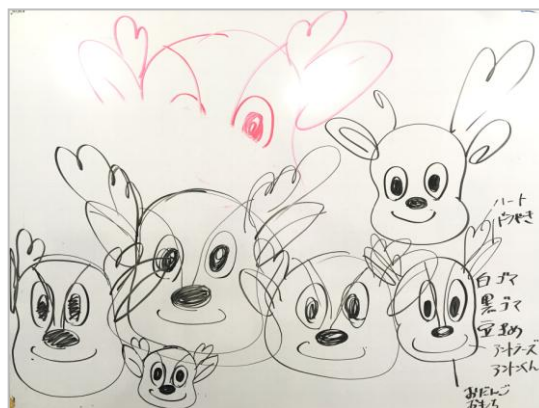


図1 絵描き歌の構想段階

令和5年度地域支援プロジェクト（教員版）

葉と片口がホワイトボードに描きながら作曲の構想を膨らませた（図1）。秋葉は歌詞にアレンジを加え、複数曲の制作を行った。鹿島アントラーズ側との調整により曲を選定し、親しみやすく一度で耳に残る作曲を実現した。

その後、完成した詩と曲をもとに、鹿島アントラーズ側により曲のミキシングが行われた。続いて、歌のレコーディングが行われ、絵描き歌の音源が完成した。子ども向けのコンテンツを目指すうえで、外部のプロフェッショナルに関わっていただけことは貴重であり、完成度を高めることにつながった。

さらに、完成した楽曲をもとに茨城大学側が映像作品の制作に取り掛かった。映像作家であり茨城大学の非常勤講師でもある横田将士氏に依頼し、楽しみながら、観て歌って描ける映像コンテンツを目指した。鹿島アントラーズと茨城大学によるチェックを重ねつつ、子どもに寄り添った横田氏のアレンジにより、映像作品《アントンのえかきうた》が完成した（図2・3・4・5）。横田氏は「トコトンアントンTV」の制作にも関わるなど、本プロジェクトにおいて重要な役割を担った。



図2 《アントンのえかきうた》のタイトルバック



図3 《アントンのえかきうた》の一場面



図4 《アントンのえかきうた》の完成場面



図5 《アントンのえかきうた》の最終場面

（3）描画シートの製作

絵描き歌の制作と同時進行で、普及を目的とした描画シートの製作に取り組んだ。当初は本プロジェクトに関するフライヤーを製作し、映像作品のQRコードを載せることで周知を図ろうとしたが、実際に描いて覚えることを想定した結果、描画シートの製作に切り替えた。

構想段階では、白地部分に薄くアントンのイラストデザインを載せ、曲を聴きながら線をなぞることで、誰でも簡単に描けるようになると想定した。曲が終われば、じっくりと彩色することで、塗り絵のような楽しみをもたらすことができると考えた。しかし、描かれたものが画一的になることが予想され、楽しみながら描くといった自由度が失われる恐れがある。より表現意欲を高めるため、描画シートの白地部分を広く取り、のびのびと描画に取り掛かれるようにした。これにより、思い思いの「アントン」が描き出されること



図6 《アントンのえかきうた》のおえかきシート

になるであろう。また、描き順を①から⑦に分けて示すことで、描くことが苦手な方も取り組めるようにした（図6）。

2 プロジェクトの成果

成果物である映像作品は鹿島アントラーズの公式マスコットYouTubeチャンネル「トコトンアントンTV」において公開されている。また、鹿島アントラーズのホームスタジアムや茨城大学におけるイベントなどでも随時公開している。その際、描画シート（おえかきシート）を配布することで、自由に描くことができる環境なども整えている。すでに様々な反響が出ているが、詳細は今後に譲ることとする。

○作品タイトル

《アントンのえかきうた》

○掲載 URL

<https://www.youtube.com/watch?v=vjJcPUpERvg>

○作品情報

映像（1分8秒）

○制作者情報

作詞：片口直樹（茨城大学学術研究院教育学野：美術教育）

作曲：秋葉桃子（茨城大学学術研究院教育学野：音楽教育）

映像：横田将士（茨城大学教育学部非常勤講師／映像作家）

歌：月城璃音（EARLY WING）

編曲：赤堀真之

○歌詞

おにぎりひとつ ありました
 たまごをふたつ のせました
 くるごまふたつ かざりつけ
 くるまめひとつ かがやいた！
 はまぐり ふたつ
 ハートも ふたつ
 ヴィクトリー！ アントン！

今後の課題及び展望

今回のプロジェクトにおいて、鹿島アントラーズと茨城大学の共同により映像作品という成果物を創出できたことは大変有意義であった。地域との連携を模索する上で、一つの手がかりとなったことは間違いないと考える。しかし、成果物による効果を検証するまでには至っていないため、今後の利活用が課題となる。子ども向けコンテンツとして、また教育コンテンツとしてどのような可能性を秘めているか、これからの展開により明らかにしていきたい。

今後の展望として、成果物を介した地域や教育学部附属幼稚園などにおける交流を考えている。その際、教育学部ならではの試みとして、教師を目指す学生たちの参入や、絵描き歌にダンスパフォーマンスの要素を加えるといった他教科との融合も試みたい。英語版の制作なども考えられ、継続的に連携強化に向けて取り組んでいく所存である。